

第17回 体験科学講座 ～女子高生特別コース～(生物生産学部)

平成 29 年 3 月 18 日 (土)、広島大学生物生産学部において、コアコースと 3 つのサブコースに分かれての体験科学講座を実施しました。各コースにおいて、女子高校生は広島大学の教員と支援員の大学院生や学部生と実習を行い、実習終了後の質問コーナーでは意見交換を行いました。

【当日の様子】

○コアコース「クマノミとイソギンチャクとの共生関係について」

クマノミとイソギンチャクとは共生関係にあり、クマノミの方は捕食者から身を守ってもらい、イソギンチャクの方は餌を運んでもらうと考えられています。クマノミにもイソギンチャクにもいろいろな種類があります。そこで、クマノミの種によって共生するイソギンチャクの種は違うのかどうかを水槽飼育実験で観察し、それがどのような意味を持つのか考察しました。



○サブコース1「植物から DNA を抽出してみよう」

生物の研究において頻繁に用いられ、重要な操作として位置付けられている DNA 抽出法を体験しました。



○サブコース2「多彩・多才な海藻類を観察しよう」

ノリ、ワカメ、ヒジキなどの「海藻」は、日本人の食卓には欠かせない食材ですが、生き物としてはあまり知られていません。そこで、海藻の様々な色や形、生態系での機能にも関係する光合成色素について学習しました。



○サブコース3「乳牛はどうしてたくさんのミルクを生産できるのか？」

1頭の乳牛が生産するミルクの量は、生物としての牛が本来の目的とする子牛への哺乳の必要量を、はるかに超えています。たくさんのミルクを生産することによって、ヒトの食料となる牛乳や乳製品（バター、チーズなど）を生産する酪農が成り立つこととなります。ミルクのもとになるのは乳牛が食べる飲料です。酪農業を成り立たせるたくさんの飼料摂取と、消化・吸収がどのように行われているのかを、広大農場の牛舎で牛を観察しながら体験しました。



○質問コーナーにて

